

05-06-26 村岡

意見：武庫川水質総合対策と管理の方向（その1）

委員 村岡浩爾

1 水質の現状

（1）公共用水域（および地下水）の水質測定項目

- ・ 一般項目（気温、水温、外観、臭気、透視度、透明度、流量）
- ・ 健康項目（重金属、農薬、VOC など26項目、要監視項目あり）---河川、湖沼、海域、地下水に適用
- ・ 生活項目（pH、BOD / COD、SS、DO、大腸菌群数）---河川、湖沼、海域に適用
- ・ 富栄養化項目（全窒素、全リン）---閉鎖性水域に適用、武庫川でも適用
- ・ トリハロメタン生成能
- ・ 特殊項目（フェノール類、銅、亜鉛、溶解性鉄、溶解性マンガン、クロム）
- ・ ダイオキシン類---河川、湖沼、海域、水底の底質
- ・ 生物保全項目（全亜鉛、要監視項目あり）---河川、湖沼、海域〔註：平17.3制定〕

（2）武庫川水系での測定地点（健康項目の場合）

- ・ 上流2、中流5、下流4、有野川2、有馬川3、船坂川3、西川1、波豆川1、羽束川2、名塩川2、天王寺川1、仁川3
- ・ 千苅水源池2 ・ 河口近傍海域：数カ所

（3）水質達成状況 良好、ただし河口域のフッ素、貯水池の全リンは対象外

2 水質監視測定システムの課題

（1）水質測定項目はこれで十分か---クリプトスポリジウム、病原性大腸菌 O-157、環境ホルモンなど微量化学物質、水浴場・親水空間の水質指標、生物保全のための水質指標

（2）測定地点はこれで十分か---河川の地域環境との対応、生物環境との対応、親水空間の環境との対応

（3）排水規制の在り方はこれで十分か---点源対策と面源対策の整理

（4）総量規制の在り方はこれで十分か---継続する意義と継続の可能性、その効果の将来予想、

3 水質総合対策・管理に向けて

（1）不法行為による水質汚濁の問題 法的制度化の可能性とその効果

（2）地域活動による簡易水質測定の情報への扱い 住民参加 情報公開の促進

（3）低水対応 / 定常時・平均値対応の水質保全からの脱却 非定常水質情報と面源負荷情報の蓄積

（4）流域単位に基づく計画策定 上・中・下流の要望や施策の平衡化

（5）河川生態系の重視 水循環を促す水量・水質保全対策の展開

（6）対策の優先順位づけの考え方と手法の開発

〔参考文献〕・大垣眞一郎、吉川秀夫監修：流域マネジメント、技報堂出版、2002

・中村太士：流域一貫、築地書館、1999

以上